

令和4年度の学校評価

ア 自己評価結果等

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>【重点目標1】安全で安心な教育環境を整備するとともに、幼児児童生徒一人一人の実態に応じた教育環境を設定し、適切かつ合理的な配慮のもと専門性の高い指導及び支援を推進する。</p> <p>【重点目標2】幼小中高の各部が連携して一貫した指導を実践する。教育課程を介して聾学校をはじめ、地域の学校や関係諸機関との連携を拡充し、キャリア教育、交流及び共同学習を推進する。</p> <p>【重点目標3】校務の組織体制の再編を計画的に進めるとともに、情報技術の導入による業務改善をすることで校務の簡素化、システム化などを推進する。</p>
<p>部、分掌</p>	<p>自己評価</p>
<p>幼稚部</p>	<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部会で単元の活動内容を確認し、朝の打合せで幼児の様子に合わせ、活動の調整や安全面の留意点の共有を丁寧に行った。また担任間で個々の幼児がねらいを達成するための環境設定や、支援の方法について話し合った。同一題材の中で、年齢の違う幼児が個々のねらいを達成できるような遊び方や支援を工夫することができた。</li> <li>・月ごとに活動のねらいをまとめ、今後にかせるようにしている。年齢ごとにまとめることで、今後の支援にも役立てられるようにしたい。</li> </ul> <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地域の園との交流や学校と園との交流を実施した。新型コロナウイルス感染症対策もあり、各種の制限のある中での交流だった。自分たちが守るルールやマナーを意識して行動し、同年齢の友達との交流を楽しむことができた。</li> <li>・乳幼児教育相談では、昨年度に引き続き東三河5市の母子保健担当保健師への説明会を実施した。新しい試みとして保育園・幼稚園の園長会に出向き、教育相談の説明とリーフレット配布を行った。様々な啓発活動を実施することで、月齢の低いお子さんの紹介や保育園からの紹介も増えた。保護者の負担軽減やお子さんとの関わり方（遊び方）の支援など、個々の家庭に合わせた支援を進めた。</li> </ul> <p>【重点目標3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材をデータ化し、共有したり改良をして使用したりすることで、少しずつではあるが業務時間の削減を進めている。今後は改めて行事の時期や内容を見直し、ねらいに応じた活動内容を精選したい。</li> </ul>
<p>小学部</p>	<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容や、行事に関する掲示を継続的に職員全体で行い、掲示方法を工夫することで児童がより多くの言葉に触れたり、自分から関心をもって情報を探しにいたりすることができた。また、掲示物を通して、相互のやり取りを増やすこともできた。今後も取組を継続していきたい。</li> <li>・学習や行事の前後において、目標設定や振り返りを毎回丁寧に行い、一人ひとりの児童の実態に応じた指導を継続して行うことができた。</li> </ul> <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流を行う前には、目的の確認や目標の設定を行い、交流後には振り返りを行うことで、できたことや次回の課題を確認することができ、児童それぞれにとって有意義な交流とすることができた。</li> <li>・県内、県外の聾学校とリモート交流を行った。レクリエーション的な活動から、学習したことの発表や発表内容についての質問をするなどの活動を行うことができた。他校の児童と関わり、他校の様子や学習の取組について知ることができた。今後も、交流及び共同学習を推進していく。</li> </ul> <p>【重点目標3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部会ではペーパーレス化を継続して行った。各行事の資料の整理やデータ化をし、引き継ぎをスムーズに行えるように取り組んでいきたい。</li> </ul>
<p>中学部</p>	<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人の実態に応じた専門性の高い指導支援を推進する目的で行った3年間の部研究をまとめた成果を全日本聾教育研究大会愛知大会で報告した。参加した分科会でいただいた助言などを報告会の機会を通して共通理解し研修を深め、実践に活かすことができた。</li> </ul> <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の学校との連携を深めることを目的として、近隣の中学校から絵画作品と書道作品の画像を借用し、交流作品展を中学部作品に合わせて実施できた。</li> </ul> <p>【重点目標3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多忙化解消に向けて、評価を2期制にし、単元毎のテストと定期考査を組み合わせることで、</li> </ul>

	評価に関する業務が一定期間に集中することなく、計画的に進められた。
高等部	<p><b>【重点目標1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別評価を導入し、年三回の定期考査から各教科ごとに行う考査へ変更した。その結果、一年を通して生活リズムが安定し、自分のペースで学習や部活動に参加できるようになった。</li> </ul> <p><b>【重点目標2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の交流校で、試行的にオンライン交流を行うことができた。また、豊川特別支援学校本宮校舎の生徒と交流する機会を2回、新設した。インターンシップの質を高め、販売実習の回数を増やした。その結果、生徒たちは、校外の方たちとのコミュニケーションを臆することなく、取り組めるようになってきた。</li> </ul>
総務部	<p><b>【重点目標1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式では、新型コロナウイルス感染症の影響により全校で集まることができなかつたため、ICT機器を活用し、式典の一部を動画配信して、各教室からリモートで参加できるようにした。その他の式典でも、感染状況に応じて、幼稚部と小学部、中学部と高等部に分けるなど、安全に配慮し、幼児児童生徒が安心して参加できる方法で実施した。</li> </ul> <p><b>【重点目標3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務部会をペーパーレス化し、印刷する紙や時間を削減することができた。</li> <li>・ICT支援員制度を活用して助言を受け、今まで活用していたパソコン作業による業務を、より簡潔に行えるように改善した。</li> </ul>
教務部	<p><b>【重点目標2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部と連携し、活用場面を想定しながら検討し、キャリアパスポートの整備を行った。また、各部の発達段階において必要と思われる内容を精査し、幼児期の教育から高等教育に至るまでの体系的な段階表の作成を進めることができた。</li> </ul> <p><b>【重点目標3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務会では、ペーパーレス化を進め、業務の効率化を図った。また、行政文書ファイルの表紙等を作成するため使用している表計算アプリの活用の仕方を見直すことで、業務の効率化を図った。</li> </ul>
情報部	<p><b>【重点目標1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書体験（小学算数、小学外国語、中学英語）などの研修を行い、デジタル教科書の活用を進めた。</li> <li>・全日本聾教育研究大会や国際交流会など様々な場面でのライブトーク（音声を文字化するシステム）の活用を進めた。</li> </ul> <p><b>【重点目標3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新校務支援システムのグループウェア機能（メッセージや掲示板機能）などを活用して、連絡や必要事項の周知に役立てることができた。</li> <li>・ICT支援員制度を活用し、各校務分掌の業務改善に活かした。</li> <li>・全日本聾教育研究大会運営と連携できるように業務を割り振った。</li> <li>・部員の勤務時間外在校時間は、月平均で昨年度より約2割減少していたが、勤務時間の中で校務に充てる割合は約1割増加していた。</li> </ul>
指導部	<p><b>【重点目標1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面を想定した避難訓練を実施し、状況に合わせた安全な避難の方法や命を守る行動について考えることができ、防災意識の向上を図ることができた。</li> </ul> <p><b>【重点目標2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活アンケートをもとに問題の早期発見・未然防止に努めることができた結果、今年度、いじめゼロとすることができた。心理面の支援として、個別の面談を定期・継続的に実施して児童生徒が相談できる環境作りに取り組むことができた。また、専門機関を含めた組織的な相談体制に繋がるようにスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの利用についての周知を行った。</li> <li>・情報モラルや薬物乱用防止、交通安全に関する指導として、外部専門機関との連携の上で講師を依頼してシミュレーターを使った体験的な活動やグループワーク等が行われ、生徒自身が身近な課題として学習することができた。</li> </ul> <p><b>【重点目標3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務業務リストの活用が定着してきたが、分掌グループでの役割分担も踏まえ、分掌内の業務ができるだけ均等化できるように再度の見直しを行った。分掌グループでの連携については研修会の準備・運営等を協力して行うことで業務の効率化に繋げることができた。</li> </ul>

保健体育部	<p><b>【重点目標 1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な感染症対策の継続を喚起することで全校の共通理解を図ることができた。熱中症予防として、熱中症指数をはじめ情報を発信することで適切な対応をすることができた。</li> <li>・食事に対する関心を高めるための活動や講演会を設定することで、専門性の高い知識を得ることができた。生活習慣とも結びつけて考える機会にもなった。</li> </ul> <p><b>【重点目標 2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の対応や応急処置、AED の使用、心肺蘇生の実践をとおして、各部の実情に応じた研修を深めることができた。</li> <li>・食育だよりや保健だよりをとおして、食事の大切さや健康、安全面について学校内外に発信し相互理解を得ることができた。</li> </ul> <p><b>【重点目標 3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健や給食といった専門的な業務も含め、保健体育部全体で情報を共有し役割を分担することができた。分掌グループで連携して、他部への連絡調整も順調に行えた。</li> <li>・校務部会のペーパーレス化も定着し、資料の閲覧がしやすくなり情報共有を深めることができた。</li> </ul>
進路指導部	<p><b>【重点目標 1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度まで実施していた保護者向け進路勉強会を進路個別相談という形に変更し、相談希望のある保護者に情報提供を行った。</li> <li>・大学進学を希望する生徒に対して、学習会を設定し、大学受験対策を進めることができた。</li> </ul> <p><b>【重点目標 2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部と連携してキャリアパスポートの整備を行い、来年度の運用に向けて準備を進めることができた。</li> <li>・ハローワークや障害者就業・生活支援センター、相談支援専門員などと連携し、指導を進めることができた。</li> </ul> <p><b>【重点目標 3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて進路指導部員で情報共有を行いつつ、就職、進学、福祉就労、中学部と役割分担を明確にし、円滑に業務を進めることができた。</li> </ul>
研修・自立活動部	<p><b>【重点目標 1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動研修については、ニーズに合わせて日々の指導や支援に生かしていけるような身近な内容で実施できた。また、一つの講座を複数で担当することにより内容や実施方法を工夫できた。</li> <li>・自立活動だよりの担当方法や内容を見直し、より分かりやすい表記で発行した。定期刊行物やニュースなども取り上げ、家庭で確認や活用しやすい内容を取り入れることができた。</li> </ul> <p><b>【重点目標 2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科・分野別研究会での協議を円滑に進められるように計画を示し推進した。全日本聾教育研究大会（愛知大会）での発表を終え、部を越えた各研究班での研究内容を周知し生かせるように整理しておきたい。</li> </ul> <p><b>【重点目標 3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援部、進路指導部と連携して校務会フォルダを作成し、様々な勤務体制の職員でも提案や報告がしやすくなった。三部で、一人で進められる業務と複数で進める業務など分類し、それぞれのペースで取り組むことができた。</li> </ul>
教育支援部	<p><b>【重点目標 1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通級による指導実施校の職員と連携を密にし、児童生徒の実態や要望に応じた指導・支援と教育環境の改善ができた。</li> <li>・難聴学級設置の小中学校に対し、難聴理解授業を実施したり、聴覚支援便りを配布したりすることで、地域で学ぶ児童生徒にとってよりよい教育環境を整備する支援の一端を担うことができた。</li> </ul> <p><b>【重点目標 2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒が利用する事業所等との連絡会を継続して実施し、関係諸機関との連携を進めていくことができた。</li> </ul> <p><b>【重点目標 3】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修・自立活動部、進路指導部と連携して研修会等を運営することで、次年度以降、より効率よく業務を進めていくための方法を考えることができた。</li> </ul>
寮務部	<p><b>【重点目標 1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舎生から出た意見をもとに、月に 1 回舎生同士で近況や話したいことを等を話し合う「おしゃべりタ</li> </ul>

イム」を設けた。会話を楽しむ時間と日課の時間のメリハリをつけることで、時間を守る意識をもてるように指導した。相手の手話が読み取れないときには、聞き直して会話を続けられるようになり、会話を長く楽しめるようになった。

**【重点目標3】**

- ・災害伝言板を活用し、保護者と一緒に、使い方の確認や伝言板への送信の練習を行った。訓練を2度行い、災害伝言板を利用した安否確認の仕方を確立することができた。
- ・災害時の緊急持ち出し袋をそれぞれ個人用に作成し、災害時には、それぞれの舎生が自分の緊急持ち出し袋を持って避難できるように準備をした。